

令和6年度 学力向上指導改善プラン

上野台中学校長 福岡孝太郎

学校教育目標		夢と未来を創造し、確かな学力と豊かな心でたくましく生き抜く生徒の育成	
推進主体		管理職と研究推進担当・関係分掌(情報教育等)、教科代表により研究推進委員会(兼学力向上推進委員会)	
学力に関する前年度の状況・経年の課題等			
学力の状況	全国学力・学習状況調査結果の状況(国語、算数・数学に関する質問調査の結果も含む)	国語	○「自分がこれからどのように本を読んでいきたいかについて、読んだ文章を参考に、知識や経験に触れながら書く」という設問において全国平均を12.3ポイント上回ったのは、単元ごとに教材の感想を書いたり、学習後の総括として400字～800字程度の課題作文を書く機会を多く持ったことがよかった。 ◆歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直すという設問では、全国平均を9.4ポイント下回った。
		数学	○「数と式」の領域の、「数と整式の乗法の計算ができるか」と問う設問では、正答率が92.3%と、全国平均を10ポイント上回っている。 ○「データの活用」の領域の「4分位範囲の意味を理解しているかどうかをみる」設問では、正答率が76.9%で、全国平均を11%上回っている。 ◆「関数」の領域の、「反比例の意味を理解しているかどうかをみる」設問では、正答率が19.2%と大変低かった。
	定期テスト、単元テストなどによる状況(各教科)	○学年が進むにつれてテスト勉強に対する意識の高まりがみられる。 ○小テスト、単元テストにコツコツ取り組んでいる。	
	授業等からうかがえる状況(各教科)	○落ち着いた学習に取り組んでいる。 ○教え合いができています。 ◆宿題以外の、自分で考えて自主学習を行うことに課題がある(経年)	
慣学・力生向上に係る等の学習状況	全国学力・学習状況調査の質問の状況	◆「授業以外に普段1日当たりどれくらい勉強しますか」という問いに対して2時間以上勉強している生徒の割合は全校平均33.4%と低い結果であった。 ◆家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」という問いに対して「当てはまる」と答えた生徒の割合は3.8%と全国平均を大きく下回った。 ○朝食を毎日食べている生徒は84.6%と高い割合(全国平均78.6%)であった。	
	学校評価などのアンケート調査による児童・生徒の状況	◆「授業以外の学習の時間も自主的に取り組んでいる。」という項目では、保護者と生徒との意識の差がある(経年)。	
授業改善	・主体的・対話的で深い学びを目指した授業改善 ・ICT機器を効果的に活用(クラウド環境を活かした授業実施等)	◆「深い学び」という点を旨とする授業について、研究が必要である。 ICT機器の効果的活用については、ここ数年ミライシードのオクリンクを中心に進めてきた。 ◆オクリンク以外の有効的な機能についての研修が必要である。 ◆不登校生への学力補完の手段としてのICT活用があまり進んでいない。	
		研校内の研究状況	昨年度に引き続き、全職員が公開授業を1回以上行った。観点として①主体的な学習②対話的な学習③ICT機器の効果的活用を掲げ、ICTのみにとられない授業公開とした。
家庭連・携校種間	家庭・地域等の状況	○学校便り、生徒指導通信、学年だより、道徳通信等を活用し、継続して家庭や地域への啓発を行った。	
	小・中における教科連携等の状況	○4小学校で、6年生対象の体験授業を出前授業した。 ○小・中の両方の英語授業を参観し、その後研修会をもった。 ○入学説明会(1月)に技術(パソコン)の体験授業を実施した。	
4月			
学力向上に向けての重点的な目標		成果となる目標 (指標となる数値等)	具体的な行動目標 (成果目標達成のための具体的な手立て等)
1. 授業改善 「分かる」「楽しい」「伸びる」授業の創造		・開かれた授業を基本とし、切磋琢磨する教員関係を築く。 ・ICT機器の効果的運用をさらに進める。 ・校内研修、研究授業を実施する。  ・「学習のゴール」と「ふりかえり」を定着させる。  ・「思考・判断・表現」の観点、あるいは問題形式において「記述式」で全国平均を上回る。	・2学期に授業公開期間を設け、全職員が授業公開をする。  ・ミライシードのオクリンクのほかにも効果的に運用できるものを積極的に活用する(ミニ研修の実施)  ・いつでも、どこでも、ICT機器の効果的運用について職員同士で話題に上げ、気軽に授業を見に行く。  ・校内研究授業として日程を設定し、計画的に多くの教員が一斉に学べる時間を設定する。  ・調べ学習、レポート発表、効果的なプレゼンテーションを個人やグループで、できることを目指す。
2. 自主学習の習慣・工夫・定着		・全校生に独自のアンケートを実施し、年度末に結果がよくなるような取り組みをする。  ・自主学習の記録をもとに学習計画を立て、自ら学習方法を工夫する。  ・学校評価アンケートや学力状況調査において「授業以外の学習の時間も自主的に取り組んでいる」、「家庭学習の時間」などの項目において、昨年度を上回る。	・自主学習の実態を把握するアンケートを作成し1学期に実施する。(ゲーグルフォーム)  ・おすすめの学習方法や悩みなどを仲間(学級、異学年)で交流する時間を作る(月1回の自主学習タイムの工夫・運用)  ・学習のやり方に関する資料を学校として作成する。  ・各教科で、タブレット学習も視野に入れた自主学習の方法を提示し、学習意欲の向上を支援し、家庭学習の習慣化を進める。  ・通信等で家庭への啓発を行う。
3. 学力補完		・学校評価アンケートの「学力向上に取り組んでいる」という問いに対する肯定的評価が80%を上回る。  ・不登校生の支援方法としてICTの活用を進める。	・朝学習で基礎・基本の定着を図る。 ・朝学習の内容、やり方など検証を行う。  ・木曜日に、ひょうごがんばり学びタイムを実施する。  ・各教科で小テストや単元テストを計画的に実施し、生徒の理解度を把握し、適切な支援をする。  ・テスト前や、長期休業中に、学習相談日を設け、個に応じた指導を充実させる。  ・兵庫型学習システムを活用し、少人数のきめ細かな指導を行う。
4. 小中連携の充実		・学習指導、生徒指導、特別支援教育、キャリア教育で連携を図る。	・全国学力状況調査結果について、合同分析を行う。  ・入学説明会の日に、6年生対象に体験授業を行う。  ・『みんなで育てよう』をもとに実践的な連携を進める。 夏季休業中に中学校区幼少中全教職員対象合同研修会を実施する。
5. 読書活動の充実		・質問紙で「読書は好きですか。」の割合が昨年度を上回る。  ・図書室の貸し出し数が昨年度を上回る。  ・図書室を利用した授業を模索する。	・生徒会図書委員会が中心となり活動を進める。 ・司書の先生との連携をとる。 ⇒図書室オリエンテーションを行う。 ⇒図書室での効果的な授業を考え、試みる。  ・定期テスト後の朝読書タイム用おすすめ本を、事前に紹介したり、学級に置く。
2～3月			
年度末評価			評価
(今年度の成果と来年度に向けた課題等)			